

いばらき能 ——— NOH@IBARAKI

仕舞 玉之段 山本章弘

狂言 棒縛 善竹隆司

能

葵上

梓之出 山本章弘



伝統／前衛／地域
20th
since 1996

平成 28 年 3 月 13 日(日) 午後 2 時開演／茨木クリエイティブセンター・センターホール

◆主催 公益財団法人茨木市文化振興財団 ◆制作 公益財団法人山本能楽堂／三栄企画 ◆後援 茨木商工会議所／茨木市観光協会

AOInoue



山本章弘(やまもと・あきひろ)

昭和35年11月生まれ。幼少より父、故山本眞義に師事し、昭和58年、故25世宗家観世左近に入門。昭和63年独立。現在26世宗家観世清河寿に師事。3歳にて初舞台。主な披曲は「石橋」「猩々乱」「道成寺」「望月」「翁」「安宅」「碓」など。海外公演は、米・ワシントン、インド、オーストラリア、イタリア、フランス等に参加。公益社団法人能楽協会理事。重要無形文化財保持者総合指定。日本能楽会々員。関西大学文学部卒業。関西大学及び大阪樟蔭女子大学能楽部講師。観世流発祥の地・奈良県結崎にある川西小学校の総合学習の能楽講師をつとめるほか、「アートによる能案内」「能とあそぼう」など、子ども達へ能楽の普及に努める。公益財団法人山本能楽堂代表理事として、「とくい能」「上方伝統芸能ナイト」などの新事業を立ち上げ、あらゆる世代に向け新たな能の魅力を伝えるべく、積極的に普及活動を行っている。「大阪文化祭奨励賞」「なにわ大賞大阪21世紀協会賞」などを受賞。

●山本能楽堂公式ホームページ
http://www.noh-theater.com/

関西から

◆狂言・能の解説

◆仕舞 玉之段

山本章弘

地謡

赤瀬雅則
梅若基徳
井戸良祐
今村哲朗

今回の玉之段は、海士(あま)というお能の仕舞です。竜宮に奪われた宝珠を奪い返そうと、海に飛び込んだ海女が宝珠奪還には成功するのですが、引き換えに自らの命を失います。その時、命を失った海人の亡霊が、自らの竜宮での出来事を、写實的に物語ります。海に飛び込むシーンから始まり、竜宮の様子を表現し、ついに宝珠を奪い取ります。しかし、守護神に追われ、最期を覚悟した海女は、自らの乳の下を掻き切り、そこに盗んだ宝珠を押し込んで、玉の入った自らの亡骸を地上に引き上げさせるのです。仕舞とは、一曲の能の中で、最も盛り上がる、見せ場となる部分を取り出し、紋付、袴姿で演じられ、能のデッサン、などとも言われています。

◆お囃子解説

◆狂言 棒縛

シテ(次郎冠者)
アド(主)
アド(太郎冠者)
後見

善竹隆司
善竹隆平
上吉川徹
上西良介

主人はいつも自分が外出したすきに、太郎冠者と次郎冠者が盗み酒をすることに気づき、ある日一計を案じ、太郎冠者の両腕を左右に広げたまま棒に縛り、次郎冠者は後ろ手に縛ってから外出します。残された2人は、やはり酒が飲みたくなり、苦心の結果、不自由な格好のまま大盃に酒をくみ、互いの口まで運んで飲むという、珍妙な酒盛りを始め歌舞に興じます。ところが主人がそこに帰宅し...

◆能 葵上 梓之出

シテ(六条御息所の生霊)
ツレ(巫女)
ワキ(横川小聖)
ワキツレ(臣下)
アイ(下人)
後見
地謡
笛
小鼓
大鼓
太鼓

山本章弘
山本麗晃
福王知登
是川正彦
善竹隆平
赤瀬雅則
梅若基徳
吉井基晴
井戸良祐
林本大
今村哲朗
斉藤敦
古田知英
守家由訓
中田弘美

光源氏の正妻、左大臣家の息女の葵上は、物の怪にとりつかれ重態でした。回復させようと様々な方法を試みますが、うまくいかず、梓弓(あずさゆみ)の音で霊を呼ぶ「梓の法」の名手、照日(てるひ)の巫女を招き、物の怪の正体を明らかにすることになりました。巫女の法に掛けられて姿を現したのは、源氏の愛人の六条御息所(みやすどころ)の怨霊です。御息所は、気高く教養深い高貴な女性ですが、近頃は源氏の足も遠のき、密かに源氏の姿を見ようと訪れた加茂の祭りでも車争いで正妻の葵上に敗れ、やり場のない辛さが募っていると訴えます。そして、葵上の姿を見ると、嫉妬に駆られ、後妻打ち(うわなりうち)「妻が若い妾(めかけ)を憎んで打つこと」で、葵上の魂を抜き取ろうとします。家臣たちは、御息所の激しさにおののき、急ぎ偉大な法力を持つ修験者(しゅげんじや)横川(よかわ)の小聖(こじり)を呼びます。小聖が祈祷を始めると、御息所の心に巣くっている嫉妬心が鬼女となって現れました。恨みの塊となった御息所は、葵上のみならず祈祷をしている小聖にも襲いかかります。激しい戦いの末、御息所の怨霊は折り伏せられ、心安らかに成仏するのです。

【見どころ】
題名は「葵上」ですが、実際には葵上は登場しません。舞台正面手に1枚の小袖が置かれ、これが無抵抗のまま、物の怪に取りつかれて苦しんでいる葵上を表します。物語の中心は、鬼にならざるを得なかった御息所の恋慕と嫉妬の情です。御息所は元皇太子妃なので、鬼に変貌しても、不気味さの中に品格を表す必要があります。特に、前場の最後、扇を投げ捨て、着ていた上着を引き被って姿を消す場面では、感情の盛り上がりをいかに表現するかと同時に、高貴さを損なわない動きの美しさを要求されます。この作品には、『源氏物語』らしい雰囲気を出したための様々な仕掛けが施されており、前半では、見せ場の謡に、『源氏物語』の巻名が散りばめられています。また御息所が葵上への嫉妬に悩む直接の原因となったのは、賀茂の祭の車争(くるまあらし)に破れたことであるという室町時代の解釈を反映して、御息所は前半破れ車に乗って登場するという設定になっています。

茨木市文化振興財団第196回公演

平成28年3月13日(日) 午後2時開演(午後1時30分開場/午後4時30分終演予定)

茨木市市民総合センター クリエイトセンター・センターホール

茨木市駅前四丁目6番16号 ☎072-624-1726/JR茨木駅から東へ、阪急茨木市駅から西へ徒歩10分

[全席指定] 一般3,000円/65歳以上、障害者及びその介助者2,500円/青少年(24歳以下)1,000円*就学前のお子様はご遠慮ください。

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き(この取り扱いは財団のみです)

12月11日(金)午前9時 インターネット・電話予約開始

残席がある場合は翌日から窓口販売いたします

◆チケットのお申込み・お問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 ☎072-625-3055(市民会館1階午前9時～午後5時※12月28日は臨時休館のため休業。また、市民会館の閉館後はクリエイトセンター1階に事務所を移します。1月4日業務開始) / インターネットチケットwww.ibabun.jp

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売は発売翌日からです。

市民会館チケットカウンター(午前9時～午後5時※閉館に伴い12月27日業務終了) / クリエイトセンターチケットカウンター(午前9時～午後5時※12月28日は臨時休館のため休業、

12月29日～1月3日は年末年始の休業) / 福祉文化会館3階チケットカウンター(午前9時～午後5時※1月4日業務開始)

*予約チケットの郵送をご希望の場合は、(チケット料金+郵送料400円)を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払ください。

払込手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。(払込口座)00970-7-190576 / 加入者名:茨木市文化振興財団

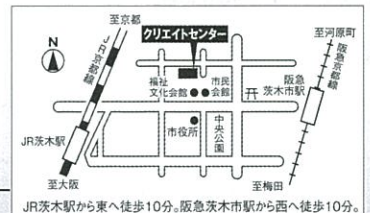
◆その他プレイガイド(12月11日店頭販売あり 午前10時～)

ローソンチケット0570-000-407(オペレーター対応)・Lコード予約0570-084-005(Lコード59781)

*ローソンチケットの取り扱いチケットはローソン、ミニストップ各店舗で直接購入できます。

チケットぴあ0570-02-9999(Pコード447-873) *チケットぴあの取り扱いチケットはサンクス、サークルK、セブンイレブン各店舗で直接購入できます。

◆主催:(公財)茨木市文化振興財団 ◆制作:(公財)山本能楽堂/三栄企画 ◆後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木市駅から西へ徒歩10分。